

ん	を	わ	ろ	れ	る	り	ら	よ
ん？ ん！	をみなえし（女郎花）	和解	ろくでなし	連絡帳 れんらくちよう	瑠璃色の星 るりいろ 瑠璃の腕 るりわん	理想的な家宝 かほう	螺旋 らせん	夜の卵 たまご よそ行き
133	127	121	111	103	93	85	77	67

ゆ	や	も	め	む	み	ま	も
夢のまた夢 ゆめ	約束	文字の反乱 はんらん	迷路へようこそ めいろ 迷惑な場所 めいわく	無関心	ミイラの微笑み ほほえ 木乃伊取りが木乃伊になる ミイラ ミイラ	まさかここが約束の来世 やくそく らいせ	く じ
59	51	45	35	27	13	5	



「こんばんは。突然、失礼します」
玄関をつつかり開けてしまったボクの前に、
初老の男が微笑んで立っていた。

どうせ怪しい勧誘だろう。

「どなたですか？ セールスならお断りします」
ボクはそこそこ丁寧にした。

男はまるで聞かえなかったかのように、
「毎日の生活お疲れ様でした。

契約期間の満了が近づいてきましたので、
ご案内をお届けに参りました」

「契約？」、この男は何を言っているんだろう？

「詳しくはこちらをお読みください」

『来世通信』というタイトルの小冊子だった。

やっぱり宗教の勧誘だったのか。

「ボクは宗教には興味がないので」と
言いながら、視線を戻す。

あれ？

たった今、目の前にいた男の姿はどこにもなかった。

不思議に思いながら部屋の中に戻ると、

テーブルの前で、お茶を飲みながら、

男が微笑んでいる。

「ちよっと、何で勝手に上がり込んでいるんだよ」
驚きと怒りで自然と口調がきつくなる。

「まあ細かいことはいいいじゃないですか。

それでは説明に入りますね・・・」

怒鳴りたかった気持ちは、



この男の目を見ると、
なぜかしぼんでしまつ。

「まずこれから後のご予定ですが、

三年後からいつきに上向いていきます。

仕事も私生活も順風満帆というところでしょうか。

でも、寿命は十二年を切っていますので、

その間で満喫していただくのがよろしいかと。

それと・・・」

「ちよつと待ってください。

何を言われているのか、

さっぱりわからないんだけど」

ボクは男の話を遮った。

「あゝそれもそうですね。

では順を追ってご説明しましょう。

前世でのあなたは、

歴史の分岐点に身を置いてみたいとのご希望から、

幕府軍を率いて鳥羽伏見で戦っていましたが、

同郷の部下をかばって戦死されました。

また、前々世では、

戦国の覇者を目指してみたいとのご希望でしたが、

残念ながら味方の裏切りから、

城を枕に討ち死にと相成りました。

まあ、いずれも契約期間の満了に伴うものでしたが」

話を聞きながら、不思議になつかしさを感じた。

そついった夢は、何度か見ている。

その夢はなぜか、かなり鮮明に覚えてもいた。

